

イチゴ「ふくはる香」の育苗期のケイ酸資材の施用効果

福島県農業試験場野菜部

平成17年度試験成績概要

1 部門名 野菜－イチゴ－品種、施肥法、作型・栽培型

分類コード 03－07－01131800

2 担当者 太田弘志・雨宮潤子

3 要 旨

イチゴ「ふくはる香」の健苗育成のため、数種のケイ酸資材の施用効果を検討した。

(1) ケイ酸資材は、シリカゲル肥料1（可溶性ケイ酸90%；6g/株を株元施用）、粒状ケイ酸カリ（可溶性ケイ酸30%；16g/株を培土混和）、液体ケイ酸カリ（水溶性ケイ酸28%；250ppmを100mL/株（50mL×2回）施用）、シリカゲル肥料2（可溶性ケイ酸17%；浸漬した水を250mL/株（50mL×5回）施用）を用いた。

(2) 生育状況は、粒状ケイ酸カリ施用でやや小ぶりで葉色が濃かった以外は無処理と大きな差はなかった。

(3) うどんこ病の発生は、9月15日の調査では、無処理（対照）＞シリカゲル肥料1＞シリカゲル肥料2＞液体ケイ酸カリ＞粒状ケイ酸カリの順に発生が多かった。

以上の結果から、「ふくはる香」育苗期におけるケイ酸資材施用により、うどんこ病の発病が少なく推移する傾向が見られた。また、その程度は、資材の種類及び施用方法により差が見られた。

4 その他の資料など